
ゲーム

Hayami

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゲーム

【Zマーク】

N4817F

【作者名】

Hayami

【あらすじ】

いつもと変わらない日々を、過ぎしていた奈緒、しかし、ある日突然、あなたの夢を叶えます。という招待状が、届くのだが・・・。

第一章 招待状

第一章 「招待状」

「ねえ！ねえ！夢の招待状って、知ってる？」

「何それ～！？」

「なんでも、その招待状が来たら、なんでも夢が叶うんだって！」

「す、ぐ、な、い！」

「でも、夢を、叶えるにはね・・・」

「叶えるには・・・？」

ピリリリリリ

アラームの音で、目が覚める。

重い身体を起こし洗面台へと向かう。

まるで、何かに操りされているかのよう、同じ毎日を、過いでいる私の

「はあ～、私、何してるんだろ?。」

こんなことを、毎日、呟いている。

そんな毎日を過いでいたある日、ポストに、一通の手紙が入っていた。

「何これ?招待状?誰からだろ?。」

そう言いながら、部屋に入り、中を開けてみると、

おめでとうございます

篠崎 奈緒様

あなたの、夢を叶える、チャンスです。

尚、参加の決定権は、篠崎様には、ございません。

必ず（生死、問わず）参加して、いただきます。

つきましては、後日、詳しい、内容を「連絡いたします。

「何これ、今時、こんななんじや、子供すらだませないよ」と笑いながら、ゴミ箱に、投げ捨てた。

そして次の日

いつも通り、アラームで目が覚め、ふと、携帯の画面に目をやると、メールが着ていた。

誰だろ？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？？

しかし・・・そこには・・・・・・・・・。

おはようございます篠崎様

昨日の招待状の件で、ご連絡いたします。

誠に申し訳ありませんが、17時に（時間厳守）写真の場所まで、お越しください。

尚17時迄にお越しになられない場合は、いついた形での参加になります。

と言つ文章と一緒に2枚の写真が添付されていた。
一枚は、場所の写真そして、もう一枚は・・・。

男性か女性かわからない無残な姿の写真だった。

ガシャツ！――！――！

思わず叫び、携帯を床に、放り投げた。

「ウソ！・・・何で・・・・。」

声を震わせて、おもわず口元した。

第一章 監視エピソード1（前書き）

突然送られてきた招待状とメール、奈緒は、まだ、信じていなかつたのだが、そこへ、新たなメールが・・・・・。

第一章 録視H派ソード

第一章 「監視 H派ソード」

何分経つただろうか、ふと、我に返る。

「支度しなきや」

そうこうと、会社に行く支度をし家を出る。

電車の中、あのメールが、気にはなつたが、
まだ、信じきつては、いなかつた奈緒は、

いつもと、変わらない景色を眺めながら、忘れようとしていた。

だが・・・・・。

携帯が鳴り、見ると。

そこには・・・

途中経過です。

「H派」で、Hントローして頂いた、

人数と現在地をお知らせします。

エントリー 数10名

皆、同じ目的地では、『じさいませんので、あしからず。

そこには、10名の名前が書いてあった。

恐る恐る、自分の名前を、クリックしてみると、地図が、表わされた。

そこに・・・奈緒と書かれた赤い丸があり、線路の上を移動していった。

奈緒は、思わず息を呑む。

青ざめた表情で会社に着くと、心配そうに、一人の男が寄ってきた。

「どうしたの？」

そう声をかけたのは、同じ課の滝本先輩だった。

「大丈夫です。」

そう返すと、ニッコリ笑い、その場を後にした。

自分のデスクに着き、椅子に座ると、思わず、ため息をもらす。

そこへ同僚の、景子がやつてきた。

「何？朝からため息なんかして！」

「実は・・・変なメールが着て・・・」

一瞬話そうか悩んだのだが、

暗い声でそう言つと携帯を取りだし、メールを見せる、

「非通知の空メールか、確かに、怖いね」

思わず、声も出ず、ゾッとして、景子の顔を、見つめる。

そう、景子にはこのメールの文章は、見えてはいなかつたのだった。

そして、奈緒は、確信した、このメールに書かれていたことは、本当だらうと、

そして、午後17時までに、写真の場所に、

行かなければ、今度は、自分が、

あの、残酷な写真の一枚になるんだと。

メールが、本物だと確信した奈緒いつたいこれから、どうなる

監視 H派ホーデ2

密告

奈緒は恐怖心にかられていた。

この場所に時間内に、行かなければあの写真みたいになる。

そり、確信したのであつた。

「Hの場所、いつた「H」なの?」

そり、思いながら、写真を見つめる奈緒。

それは、H事中のコンクリート剥き出しのビルで、周りはビルに囲まれていた。

いつた「H」なんだ

そり思つと、焦りを感じ、

頭の中は、そのことどころになり、仕事どころでなくなったり、

ただ、時間だけが、流れりへと、過ぎてこへのであった。

そして、時間は12時を過ぎた……。

ご飯も、喉を通らなくなつて、焦りを感じ、

思ついたかのよつて、パソコンをいじりだす……。

そして、

出でる、写真をくまなく、送りあつた写真と混じてわざわざ

探していく……。

1時間そして、2時間経つが……

〔写真と同じジベルはこくら探しでも出ではしなかつた。〕

焦りは、しだいに苛立ちへ・・・。

「時間がない・・・」

やが、つぶやくと、携帯にて囁き、田をやる。

その時であった。

番号非通知の電話がかかってきたのであった。

出るかでないか、悩むことなく、電話にでる奈緒。

「・・・・・えつ？」

奈緒は耳を疑つた。

その、電話は、若い男からで、奈緒に、写真の

場所を告げたのであった。

「待つて！！」

声を荒げ叫ぶが、それを、告げるに、電話が、切れてしまった。

電話を見つめ立りすくむが、

すぐそこ、じんな、じとをしてる場合ぢやないじと、返づかわ、

嘘かもしれないが、今は、信じるしかなじと、思ひ、

会社を、飛び出したのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4817f/>

ゲーム

2010年10月10日00時51分発行